

# 令和7年度 モニタリング結果

## <ヨシ原編>

重要種に係わる情報については、原則非公開とさせていただきます

令和8年2月5日

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

1. ヨシ原再生事業の概要
  - (1) ヨシ原再生の目標
  - (2) ヨシ原再生箇所
  - (3) ヨシ原面積の推移
  - (4) ヨシ原再生の考え方
2. 令和7年度 モニタリング概要
  - (1) モニタリング調査目的
  - (2) モニタリング調査項目
  - (3) 令和7年水位（米津地点）
3. 令和7年度 施工後モニタリング結果
  - (1) ヨシ原再生地区の概況
  - (2) 景観
  - (3) 地形
  - (4) 植生
  - (5) 底生動物
  - (6) 鳥類
  - (7) 魚類
  - (8) 水質
  - (9) 令和7年度 総括
4. 次年度モニタリング実施方針
  - (1) 実施方針
  - (2) モニタリング計画（案）

# 1. ヨシ原再生事業の概要

## (1) ヨシ原再生の目標

- ・ かつて昭和40年代には、矢作川河口域に約35ha(昭和48年)のヨシ原が形成され、多様な生物が生息・生育する豊かなヨシ原環境を形成していたと推測。
- ・ かつての豊かな自然環境を再生するため、ヨシ原再生に着手。
- ・ 目標とするヨシ原面積は、河口部全体で約35ha(平成20年のヨシ原面積約15haに対して、約20haを事業により再生)とし、ヨシ原再生により多様な生物の生息環境の再生を目指す。

### ◆自然再生の目標

※自然再生計画書(河口部再生編)より

#### <自然再生の目標>

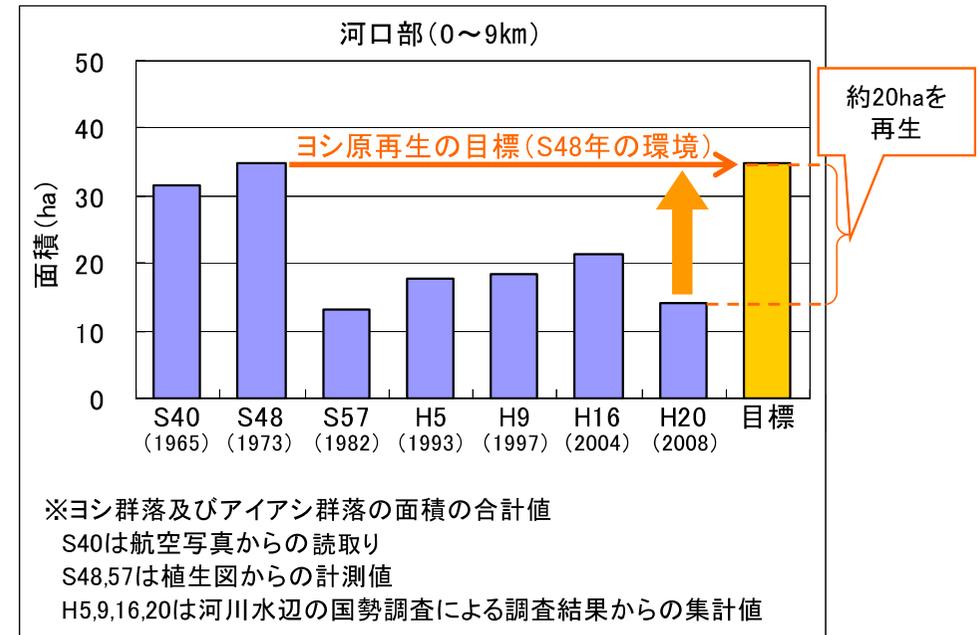
- ・ 河川改修や砂利採取等の様々なインパクトにより減少した干潟やヨシ原を、多様な生物が生息・生育する豊かな生態系を有していた昭和40年代に見られた環境を目指す

#### <場の再生目標>

- ・ 約35haのヨシ原面積(約20haを再生)を目標

#### <生物環境の目標>

- ・ ヨシ原に依存する鳥類、カニ類  
オオヨシキリの生息個体数の回復、オオジュリンやアシハラガニ、クロベンケイガニなどの生物の回復



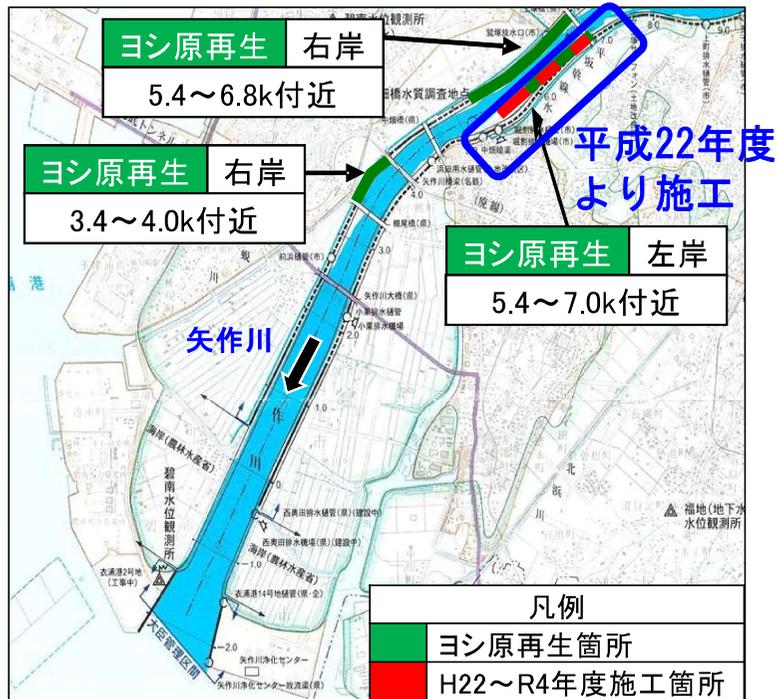
ヨシ原面積の目標値

# 1. ヨシ原再生事業の概要

## (2) ヨシ原再生箇所

- ・ ヨシ原再生の事業箇所としては、過去からのヨシ原の変遷等を考慮し、3地区を選定。
- ・ 平成22年度より、「5.4k付近左岸地区」を上流側に向かって段階的に施工。

### ◆ヨシ原再生位置(計画)



※自然再生計画書(河口部再生編)より

昭和40年

中畑橋

ヨシ原が広く分布

平成18年

中畑橋

ヨシ原が減少

中畑橋上流では、左右岸で水際にヨシ原が広く見られたが、砂利採取や護岸整備の影響により大部分のヨシ原が失われた箇所で、かつてのヨシ原を再生するため、再生箇所として選定

昭和40年

棚尾橋

ヨシ原が広く分布

平成18年

棚尾橋

ヨシ原が減少

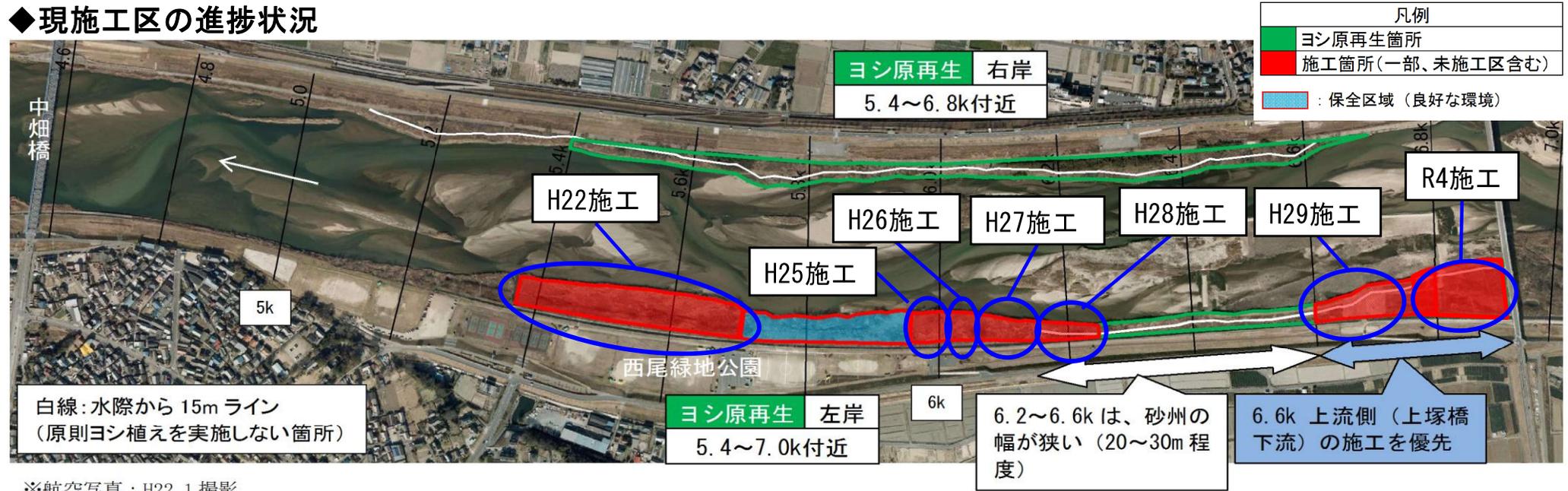
棚尾橋付近右岸は、かつてヨシ原が広く見られたが、砂利採取や護岸整備の影響によりヨシ原面積が大きく減少し、現在は水際にわずかに残る程度。現在残されているヨシ原を拡大することによりかつてのヨシ原を再生するため、再生箇所として選定

# 1. ヨシ原再生事業の概要

## (2) ヨシ原再生箇所

- 平成22年度より、「5.4k付近左岸地区」を上流側に向かって段階的に施工。
- 令和4年度には、平成29年度施工区の上流側にてワンド創出を含めた施工を実施。

### ◆現施工区の進捗状況



※航空写真: H22.1撮影

### ◆ヨシ原施工 概算数量

※6.2~6.6k付近は砂州幅が狭く、施工実施は今後検討

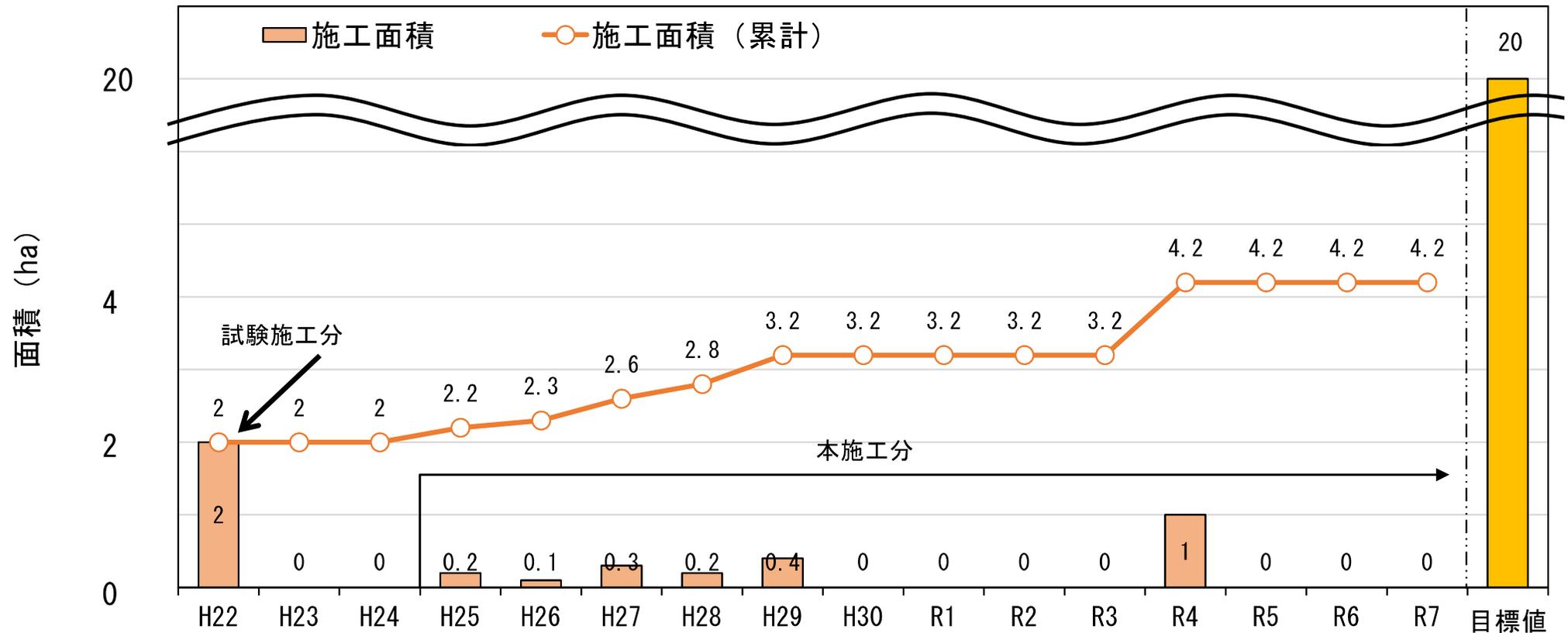
数量(概算)	施工年度											計
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30~R3	R4	R5~R7	
位置(km)	5.4-40~ 5.6+140	未実施	未実施	5.8+160 ~ 6.0+10	6.0+10 ~ 6.0+40	6.0+40 ~ 6.0+130	6.0+130 ~ 6.2+80	6.6 + 00 ~ 6.6 + 120	未実施	6.6+120 ~ 6.8+100	未実施	5.4-40~5.6+140 6.0-40~6.2+80 6.6+00~6.6+120 6.6+120~6.8+100
延長L(m)	380	-	-	50	30	90	160	120	-	180	-	1010
面積A(ha)	2.0	-	-	0.2	0.1	0.3	0.2	0.4	-	1.0	-	4.2

# 1. ヨシ原再生事業の概要

## (3) ヨシ原面積の推移

- ・ 令和4年度までに約4.2haのヨシ原再生(施工)を実施。
- ・ 令和4年度は、ワンド創出を含むヨシ原再生(施工)を実施。

### ◆ヨシ原施工面積の推移

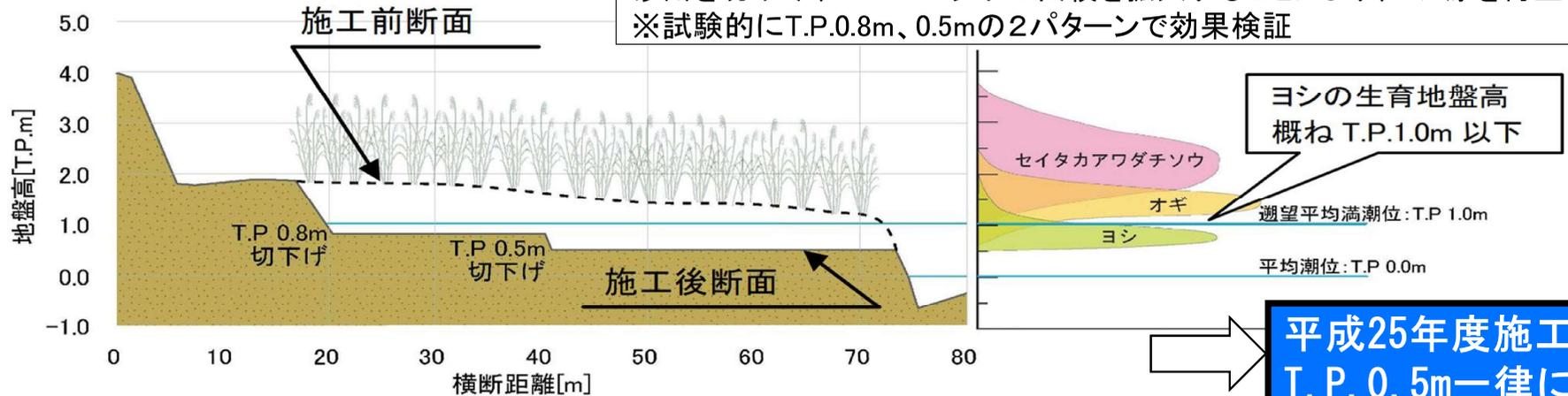


# 1. ヨシ原再生事業の概要

## (4) ヨシ原再生の考え方

- 平成22年度施工区でのヨシ原施工は、地盤高の違いによるヨシ再生効果を把握するため、事前調査結果をもとに、2つの地盤高(T.P. 0.8m/0.5m)で盤下げを行い、再生効果をモニタリング(試験施工)。
- 平成22年度施工区でのモニタリングによる効果検証を踏まえ、平成25年度施工区から盤下げ高をT.P.0.5m一律に見直し、6.0k付近上流側において段階的に施工を実施(本施工)。
- 施工箇所においてヨシ植え(地域協働)を実施することで、早期のヨシ定着を促進。

### ◆ヨシ原再生の考え方(H22施工区)



### ◆施工状況(H22施工区(5.4k左岸付近))



## 2. 令和7年度 モニタリング概要

### (1) モニタリング調査目的

- ・ 令和7年度は継続的なモニタリングにより施工効果を把握。
- ・ 令和4年度施工区で整備したワンドについては、さらに魚類・水質状況を補足的に把握。

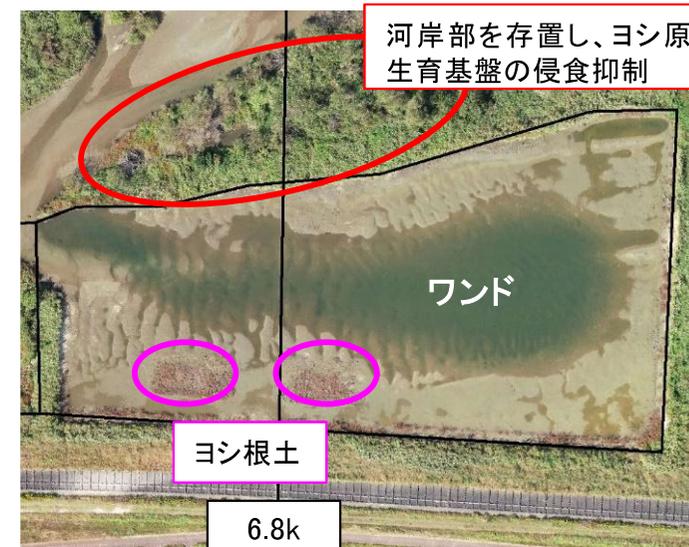
#### <これまでの経緯、モニタリング結果概要>

- ・ ヨシ原施工は、試験施工でのモニタリング結果を踏まえ、平成25年度以降、ヨシが生育しやすい冠水頻度4h/日程度となるT.P.0.5m※一律での施工を実施  
※施工区の縦断距離に応じて、高さを微調整
- ・ 施工範囲多くでは、ヨシは概ね順調に定着。あわせて[ ]等の湿地性の希少植物や、クロベンケイガニ等のカニ類が確認され、良好な湿地環境を形成
- ・ 施工区の一部で、**水際部の河岸侵食など地形変化**を確認。また、**一部でヤナギ類の定着**を確認。→ **令和元年度緊急3カ年対策（樹木伐開）を施工区及び周辺で実施**
- ・ **令和4年度にH29施工区上流側でワンド創出を含む施工を実施**

#### <令和7年度モニタリング方針>

- ・ ヨシやヤナギ類等の植生の生育変化を継続してモニタリング
- ・ **樹木伐開箇所における植生の定着（回復）や生物の応答**についてモニタリング
- ・ **モニタリング項目は令和6年度と同様の7項目を実施**（地形、植生、底生動物、鳥類、景観、魚類、水質）

#### ◆令和4年度施工箇所(6.8k付近)



#### <ワンド施工のねらい>

- ・ 近傍（棚尾橋下流右岸）に現存するワンドとヨシ原が一体となった良好な環境を参考に、新たなヨシ原環境の再生・創出を図る。
- ・ 河岸部に土堤を存置することで、施工後の基盤地形の侵食を抑制し、長期的にヨシ原が維持されやすい場を創出する。
- ・ ワンド内で水生生物（ハゼ科魚類やコイ科稚魚等）の生息環境を保全・創出

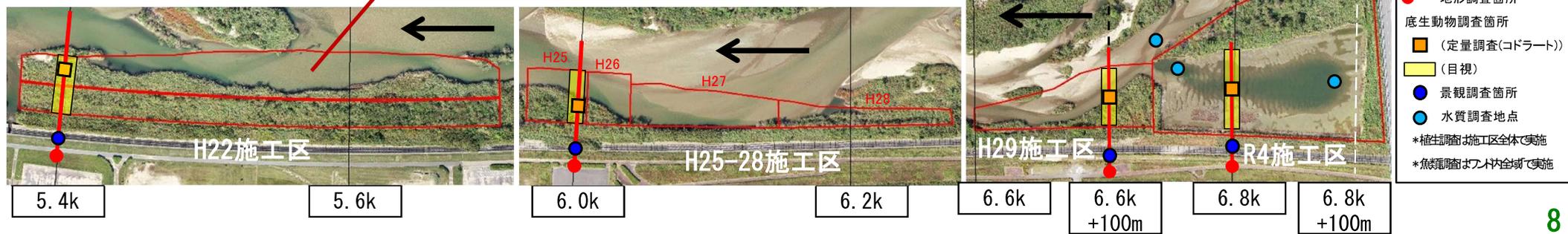
# 2. 令和7年度 モニタリング概要

## (2) モニタリング調査項目

調査項目		調査目的	調査内容	調査時期 (実施月日)	数量
ヨシ原 施工区 全域	地形	ヨシ原生育基盤となる地形変化を把握する	掘削箇所の地盤高の計測	秋季 (10/14)	4測線
			衛星画像の取得、UAV空撮	秋季 (10/20~10/21)	4.6k~7.0k付近
	植生	ヨシ等の植生の分布を把握し、ヨシの生育状況を把握する	ヨシの生育・分布状況、植物相	秋季 (11/4~11/5)	4箇所 (施工区域)
	底生動物	ヨシ定着に応じたカニ類等の底生動物の生息・拡大状況を把握する	定量調査 表層	秋季 (10/20~10/21)	4箇所 (施工区域)
			定性調査 (目視観察)		4箇所 (施工区域)
	鳥類	ヨシ原を利用する鳥類の利用状況を把握する	定点観察 (オオヨシキリ)	初夏(6/19)	4箇所 (施工区域)
定点観察 (オオジュリンほか)			冬季 (1/21)		
景観	ヨシ原景観を把握する	定点撮影	秋季 (10/20~10/21)	4地点	
R4 施工区	魚類	R4施工区内ワンドにおける魚類の生息状況を把握する (補足調査)	定性調査 (任意採捕)	春季(4/24-4/25)	1箇所 (R4施工区)
	水質	生物の生息基盤となる水質を把握する (補足調査)	多項目水質計による簡易水質測定	春季(4/24-4/25)	1箇所 (R4施工区)

### ◆モニタリング調査位置図

令和元年度に樹木伐開実施済み

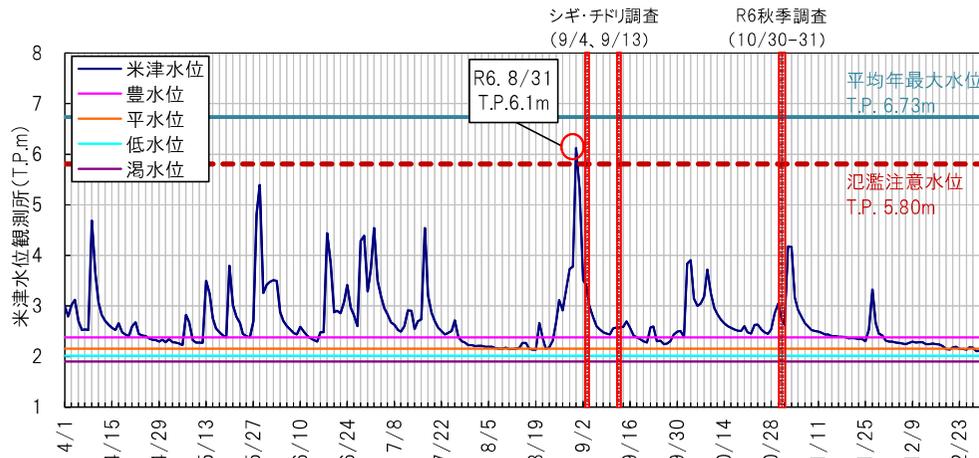


# 2. 令和7年度 モニタリング概要

## (3) 令和6年、令和7年水位 (米津地点)

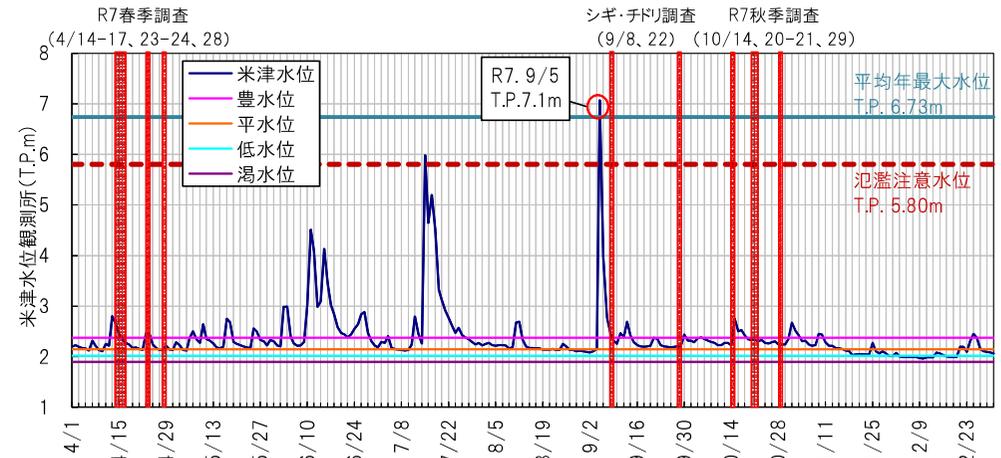
- 令和6年は、平均年最大水位を超える出水は発生せず、8月末に出水(T.P.6.1m)が発生。
- 令和7年は、9月に平均年最大水位を超える出水(T.P.7.1m)が発生。

### ◆ 令和6年水位(米津観測所)



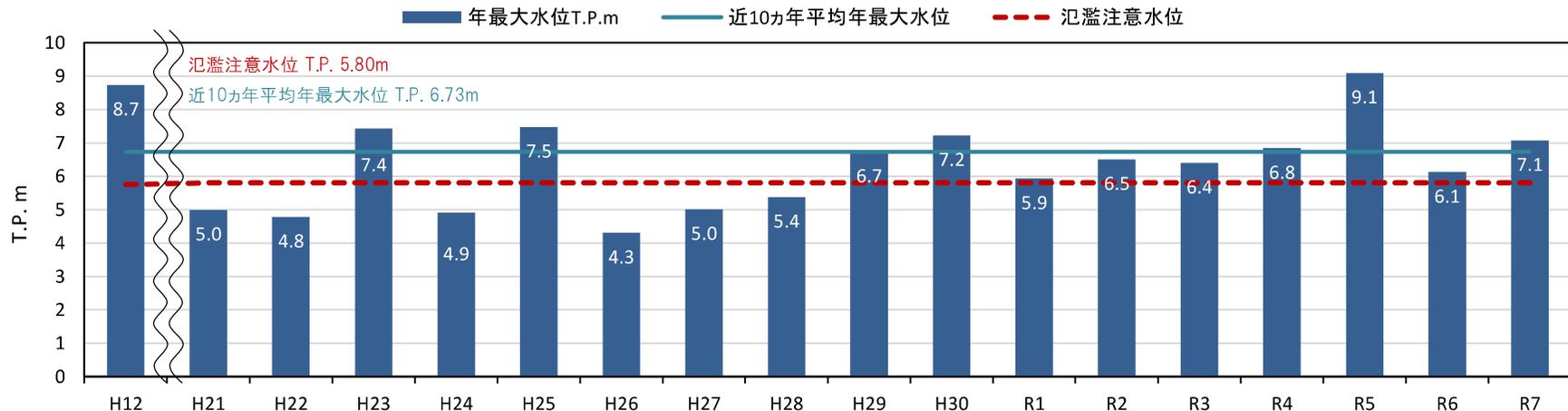
※豊平低濁水位、平均年最大水位は2016~2025年の平均値(暫定値)

### ◆ 令和7年水位(米津観測所)



※豊平低濁水位、平均年最大水位は2016~2025年の平均値(暫定値)

### ◆ 年最大水位の推移(平成12年東海豪雨、平成21年~モニタリング期間中)



※近10年平均年最大水位は2016(H28)~2025年(R7)の平均値(暫定値)

### 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

#### (1) ヨシ原再生地区の概況（平成22～29年度施工区）

- ・ 平成22年度施工区（5.4～5.6k左岸付近）では、地盤の高いT.P.0.8m箇所を中心にヤナギ類が定着・拡大。地盤の低いT.P.0.5m箇所では水際の侵食が進行し、部分的にヨシが優占。
- ・ 平成25-28年度施工区（5.8～6.2k左岸付近）では、平成27年度施工区付近で侵食が進行。地形が維持される範囲では部分的にヨシが優占しているが、ヤナギ類も繁茂。
- ・ 平成29年度施工区（6.6k左岸付近）では、施工区の水際が侵食しているが、残存する範囲では概ねヨシが優占。

■H22施工区（5.4～5.6k左岸付近）

■H25-28施工区（5.8～6.2k左岸付近）

■H29施工区（6.6k左岸付近）



○施工後15年目（令和7年10月）



○施工後12年目（令和7年10月）

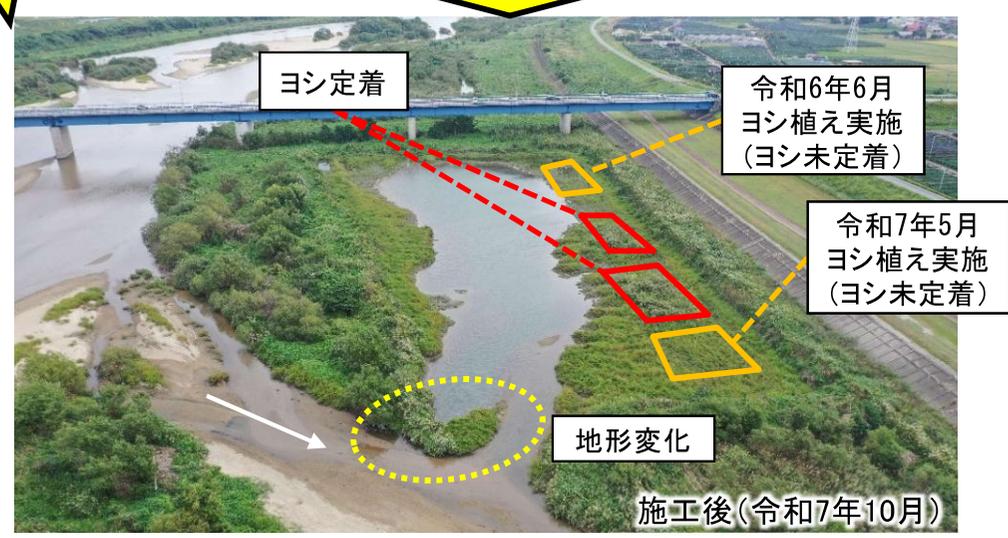
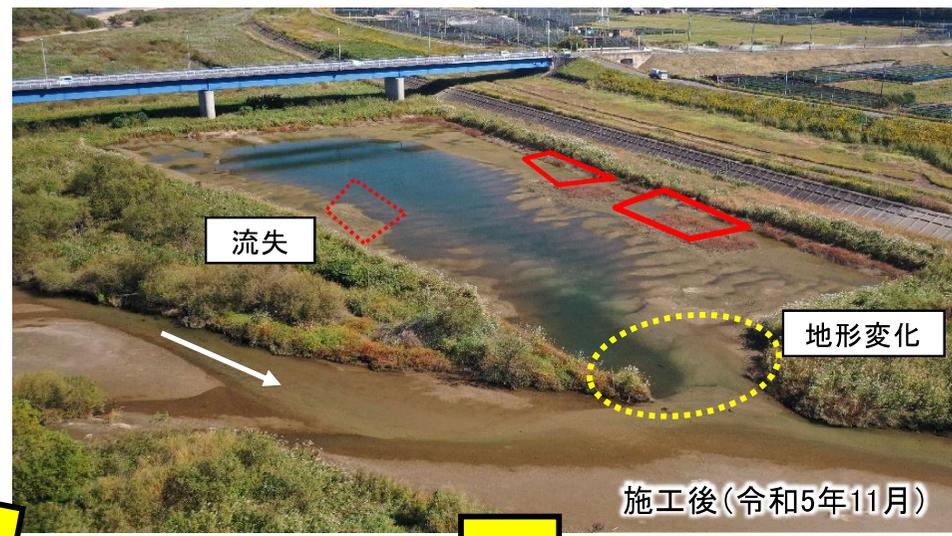


○施工後8年目（令和7年10月）

### 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

#### (1) ヨシ原再生地区の概況（令和4年度施工区）

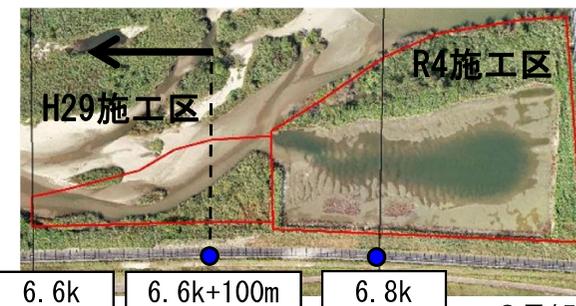
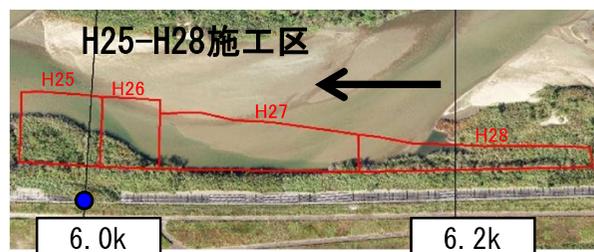
- ・ 令和4年度施工区では、施工時にヨシ根土の撒出し(3箇所)を実施。令和5年6月出水でそのうちの1箇所が流失したものの、左岸寄りの2箇所は残存し、ヨシが生育。
- ・ ヨシ植えイベントを2箇所で開催(令和6年、令和7年)しているがヨシは未定着。
- ・ ワンド地形は概ね維持されているが、開口部付近は地形が不安定。



# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

## (2) 景観

- 5.4kおよび6.0k(平成22年度施工区)では、令和元年度の樹木伐開によりヤナギ類が消失しオギ等の草本が繁茂していたが、伐採から年数が経過し、ヤナギ類が再繁茂・高木化。
- 6.6k+100m(平成29年度施工区)では、施工断面の地盤高の変化する箇所付近でヤナギ類が繁茂・高木化する傾向。



◆令和元年【春季】の景観(令和元年6月5日撮影)

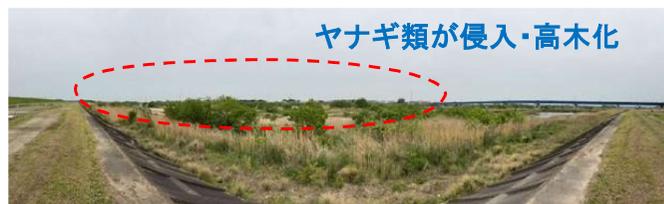


●景観撮影位置

◆令和2年【春季】の景観(令和2年6月9日撮影)



◆令和7年【春季】の景観(令和7年4月25日撮影)



5.4k

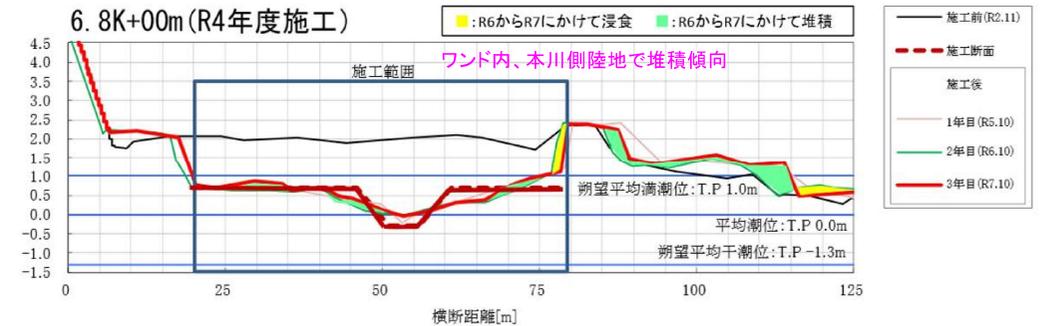
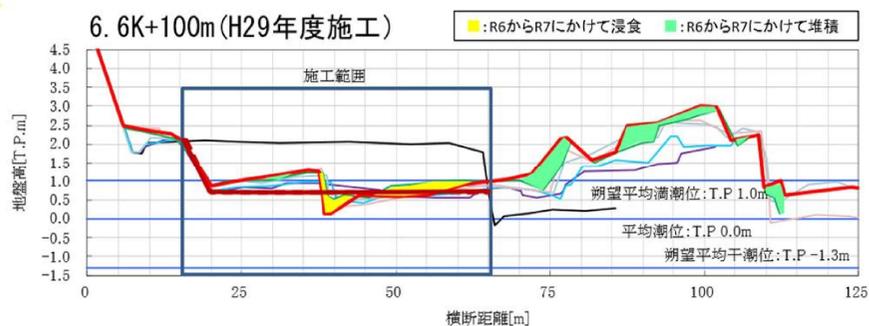
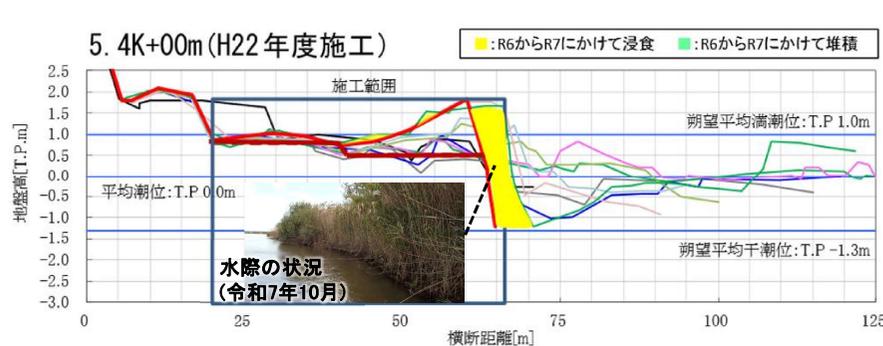
6.0k

6.6k+100m

# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

## (3) 地形

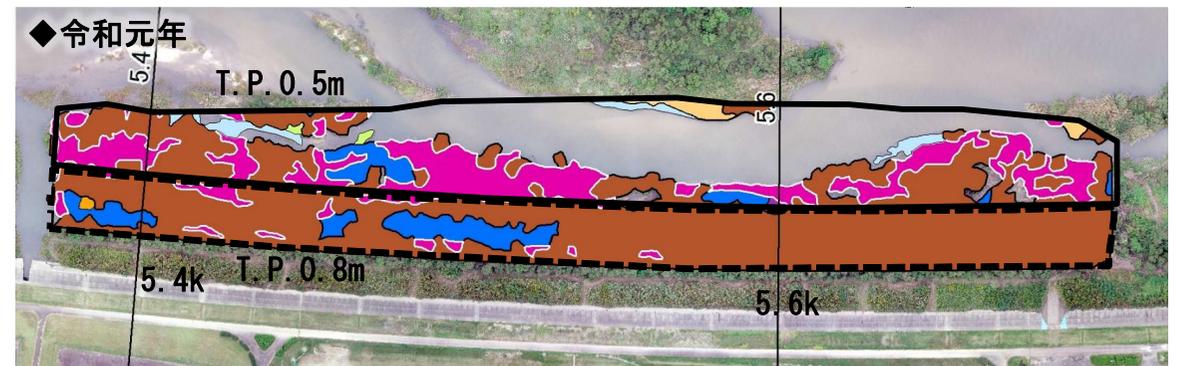
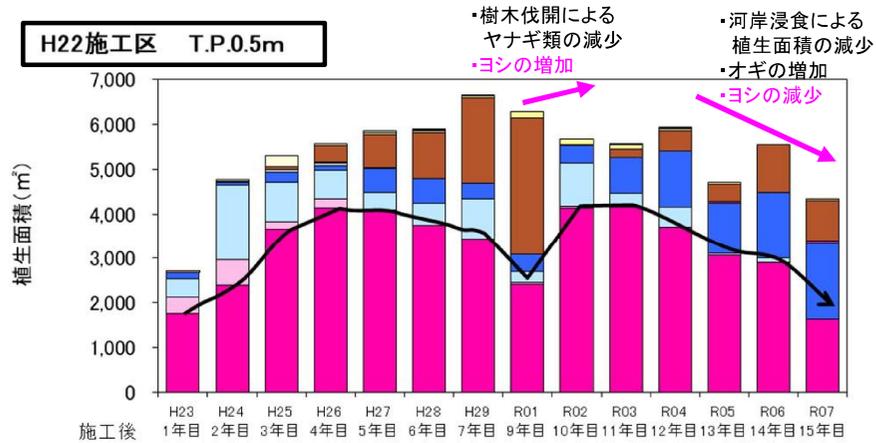
- 5.4k+00m測線(平成22年度施工区)では、令和6年と比較すると水際部(本川側)が侵食。
- 6.0k+00m測線(平成25年度施工区)では、過去に河岸侵食が進行したが、令和7年では侵食の進行はなし。
- 6.6k+100m測線(平成29年度施工区)では、令和6年と比較して施工範囲内は侵食、左岸から75m~110mの中州では堆積が進行。
- 6.8k+00m測線(令和4年度施工区:ワンド)では令和7年は堆積傾向。令和6年と比較すると、ワンド内と本川側陸地で堆積傾向。



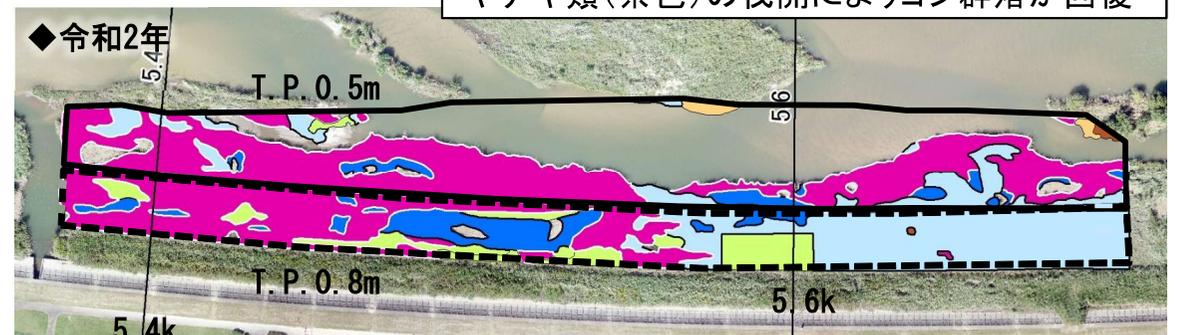
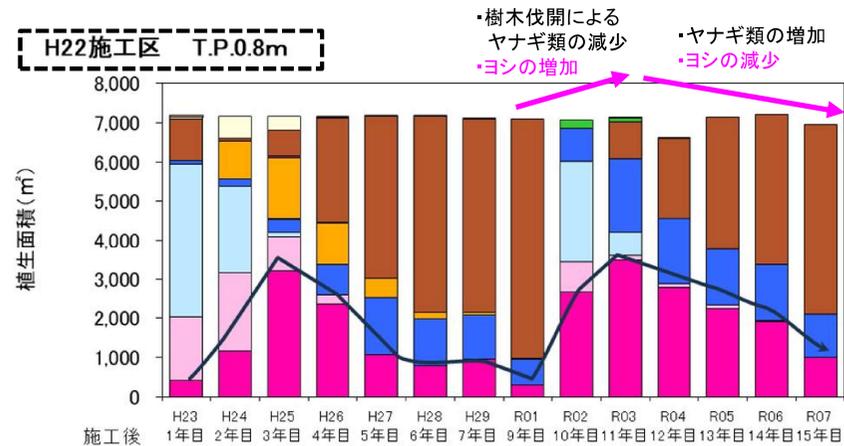
# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

## (4) 植生 (植生分布) (平成22年度施工区：試験施工)

- ヨシ面積は施工後増加。その後ヤナギ類が増加し、ヨシ面積は漸減。9年目(令和元年度)にヤナギ類を伐開、ヨシ面積が再び増加するもオギやヤナギ類の増加に伴い漸減。



ヤナギ類(茶色)の伐開によりヨシ群落が回復



・T.P. 0.5mではオギが増加、ヨシが減少  
・T.P. 0.8mではヤナギが増加、ヨシが減少

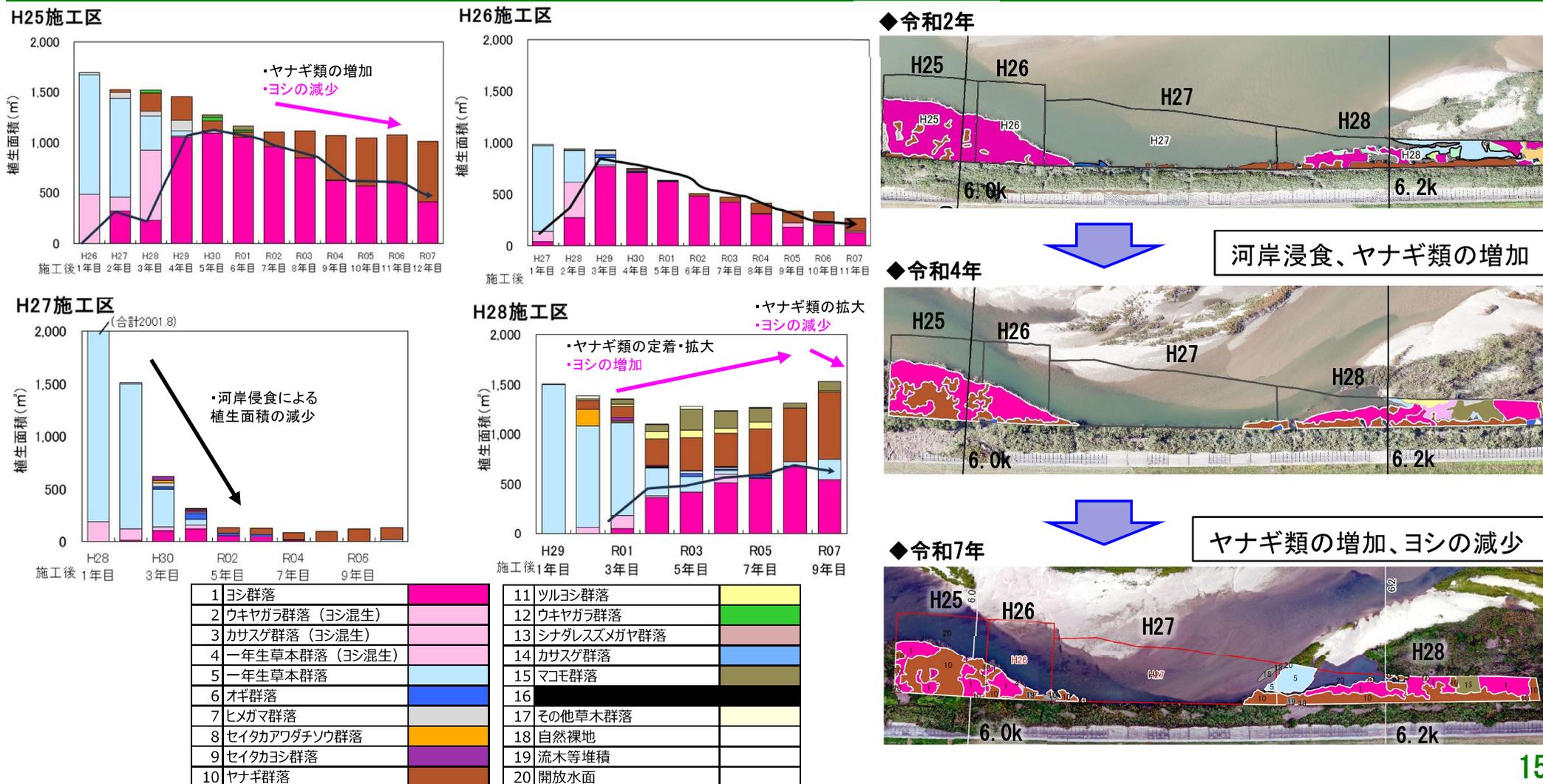


1	ヨシ群落		11	ツルヨシ群落	
2	ウキヤガラ群落 (ヨシ混生)		12	ウキヤガラ群落	
3	カサスゲ群落 (ヨシ混生)		13	シナダレスズメガヤ群落	
4	一年生草本群落 (ヨシ混生)		14	カサスゲ群落	
5	一年生草本群落		15	マコモ群落	
6	オギ群落		16		
7	ヒメガマ群落		17	その他草木群落	
8	セイトカアワダチソウ群落		18	自然裸地	
9	セイトカヨシ群落		19	流水等堆積	
10	ヤナギ群落		20	開放水面	

# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

## (4) 植生 (植生分布) (平成25-28年度施工区)

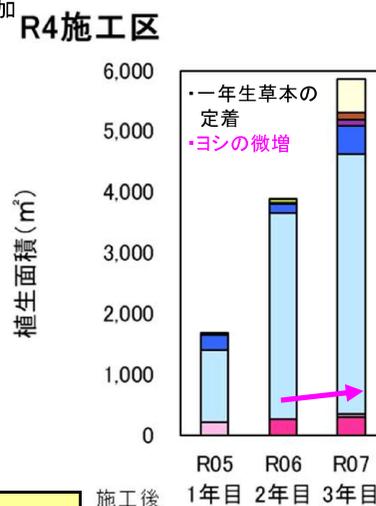
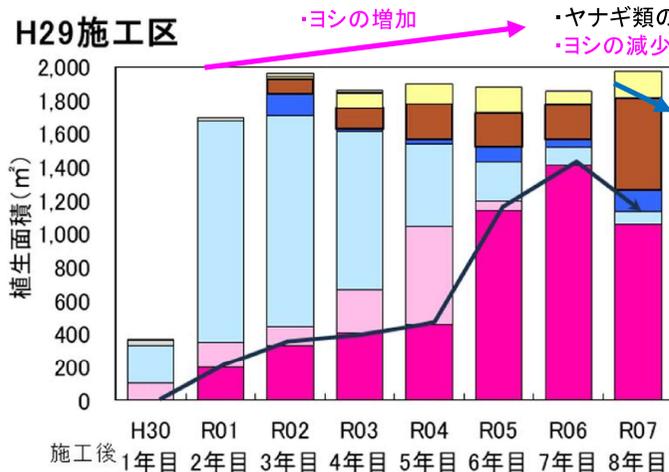
- 平成25年度施工区、平成26年度施工区では、施工後2年目又は3年目となる平成29年にヨシ面積が増加したが、その後は植生面積、ヨシ面積ともに減少傾向。また、特に平成25年度施工区ではヤナギ類が増加傾向。
- 平成27年度施工区では、河岸侵食により植生面積が激減。残存箇所はヤナギ類が生育。
- 平成28年度施工区では、増加傾向にあったヨシ群落が増加傾向にあったヨシ群落がヤナギ群落へ遷移。



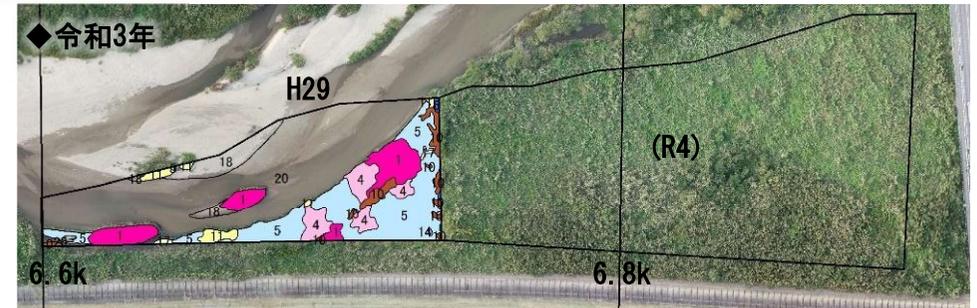
# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

## (4) 植生 (植生分布) (平成29年度施工区、令和4年度施工区)

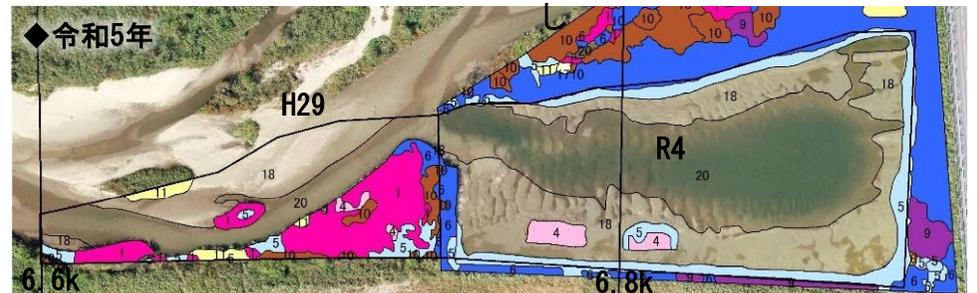
- 平成29年度施工区は、増加傾向にあったヨシ群落が増やなぎ群落へ遷移。
- 令和4年度施工区は施工後3年目であり、根の撤出しを行った区域についてはヨシが優占し、面積はほぼ変化なし。ヨシ植えイベント実施箇所でのヨシの定着は未確認。



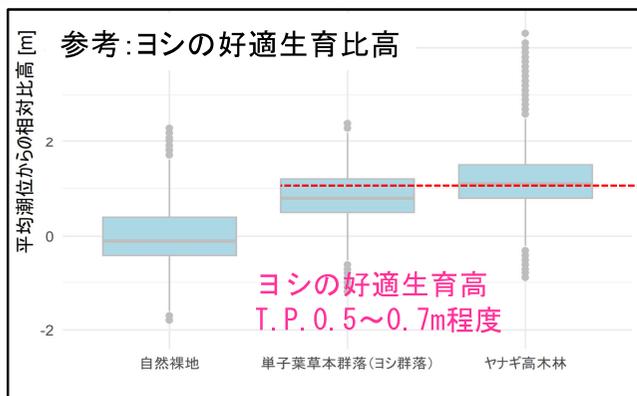
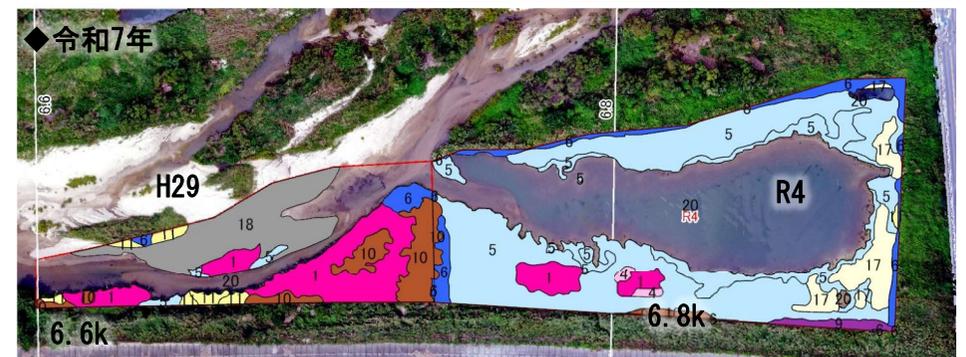
1	ヨシ群落		11	ツルヨシ群落	
2	ウキヤガラ群落 (ヨシ混生)		12	ウキヤガラ群落	
3	カササゲ群落 (ヨシ混生)		13	シナダレスメガヤ群落	
4	一年生草本群落 (ヨシ混生)		14	カササゲ群落	
5	一年生草本群落		15	マコモ群落	
6	オギ群落		16		
7	ヒメガマ群落		17	その他草木群落	
8	セイタカアワダチソウ群落		18	自然裸地	
9	セイタカヨシ群落		19	流木等堆積	
10	ヤナギ群落		20	開放水面	



ワンド施工、ヨシ根の撤出



ヨシ群落の定着、一年生草本の侵入

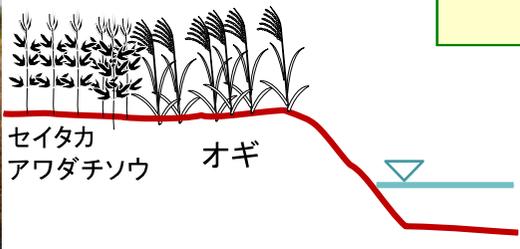


# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

## (4) ヨシ原再生地区の植生の状況

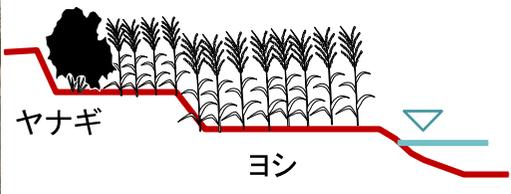
### ◆平成22年度施工区(試験施工)の変化

<施工前 平成20年12月>



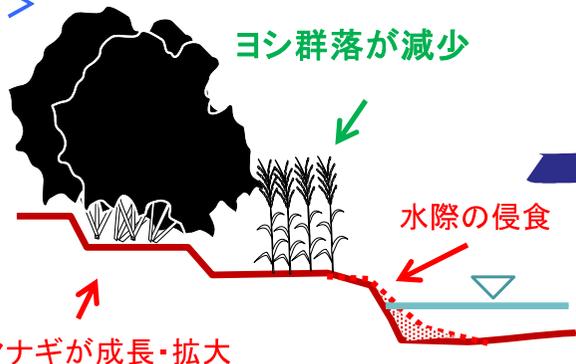
施工切り下げ実施

<施工後 平成23年11月>



10年経過

<施工後 令和元年10月>



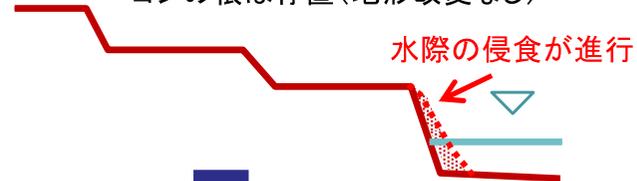
- ・平成22年度施工区(試験施工)ではヤナギの繁茂・水際の侵食によりヨシ群落が増少していたが、令和元年度の樹木伐開後に回復。
- ・伐開後5年が経過し、植生遷移・堆積によりヤナギ・オギが繁茂。  
⇒ヨシ群落が再び減少

<樹木伐開後 令和2年3月>



樹木伐開実施

ヤナギを伐開  
ヨシの根は存置(地形改変なし)

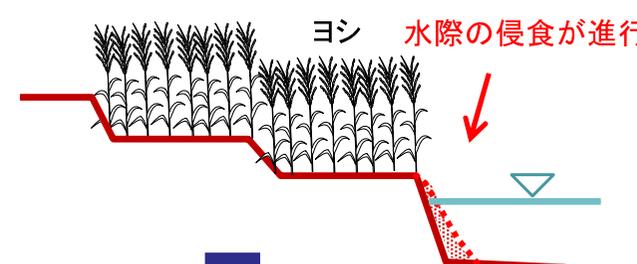


<樹木伐開後 令和2年11月>



ヨシ群落が増少

ヨシ 水際の侵食が進行



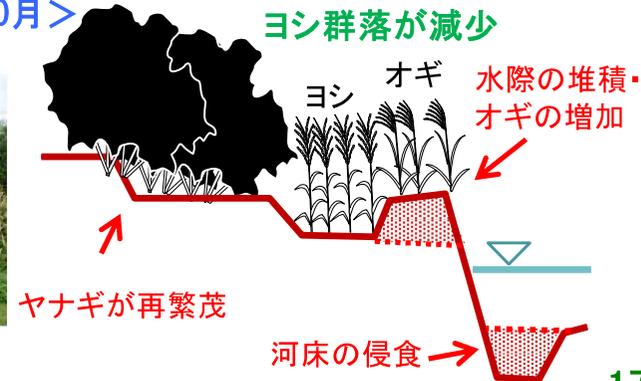
5年経過

<樹木伐開後 令和7年10月>



ヨシ群落が増少

ヨシ オギ 水際の堆積・オギの増加



### 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

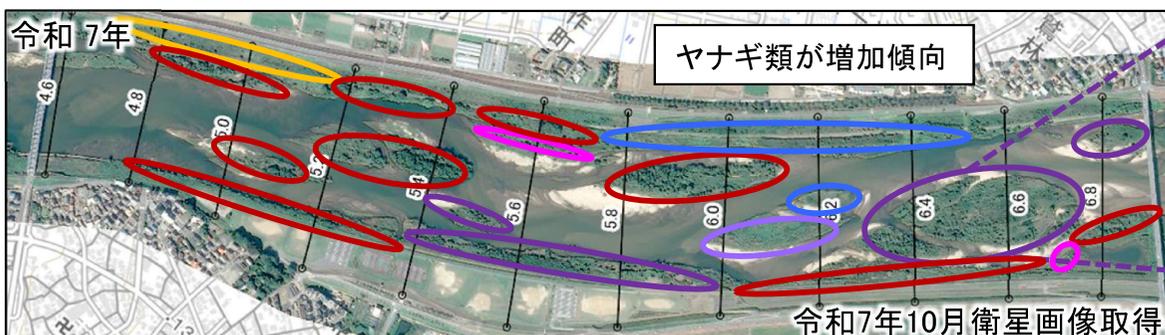
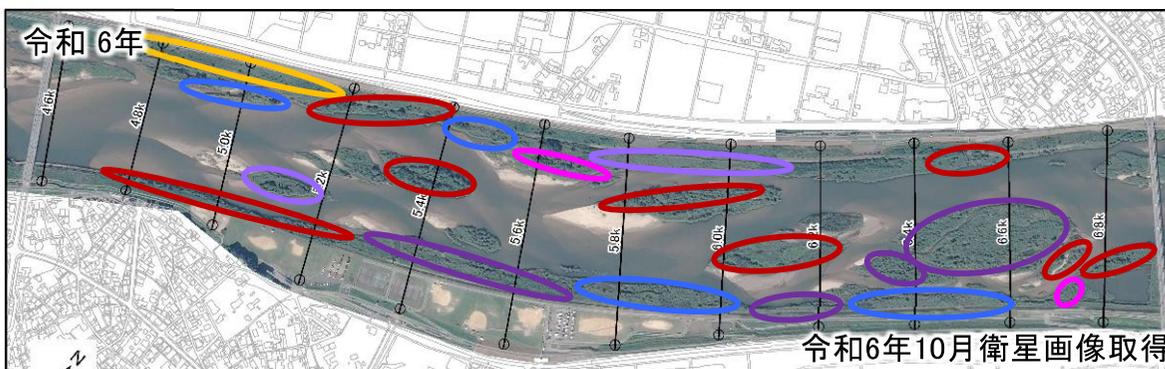
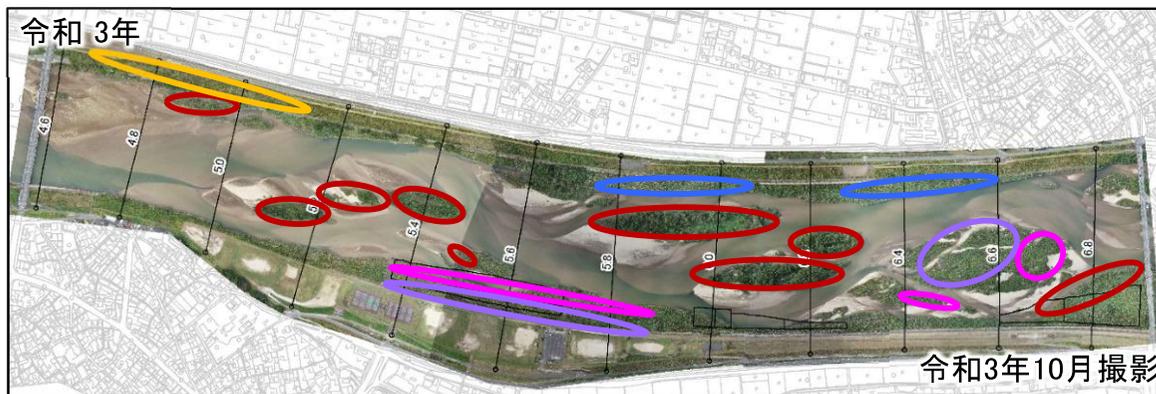
#### (4) 植生（重要種等）

重要種に係わる情報については、原則非公開とさせていただきます

# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

## (4) 植生 (地区全体の主な植生の概略分布)

- ・ 地区全体としては、ヨシ、ヤナギ類、オギ等が優占する植生を形成。
- ・ ヤナギ類が近年増加傾向。

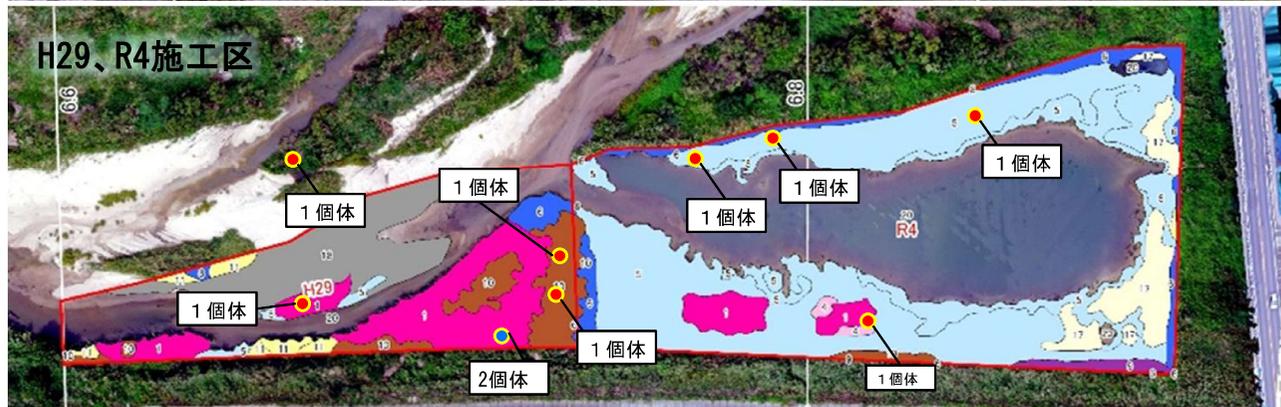
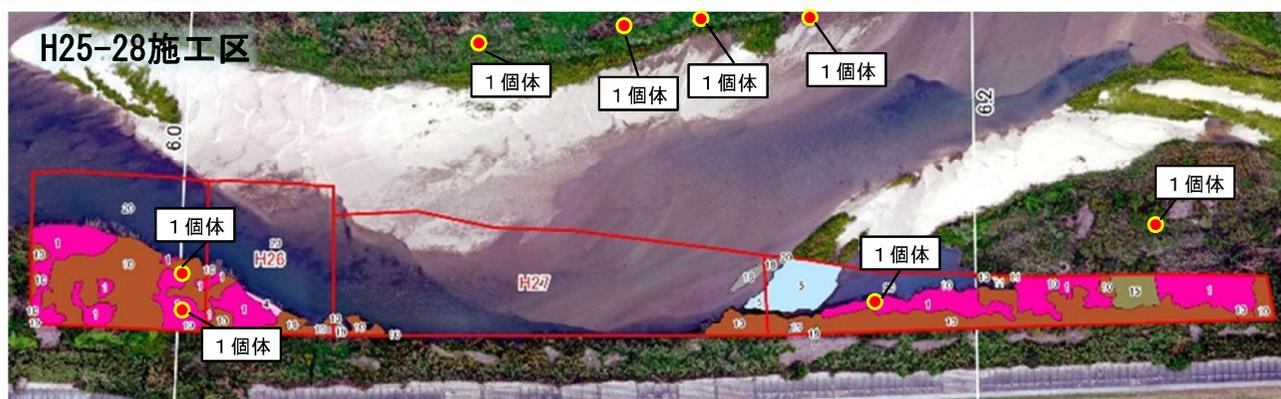


# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

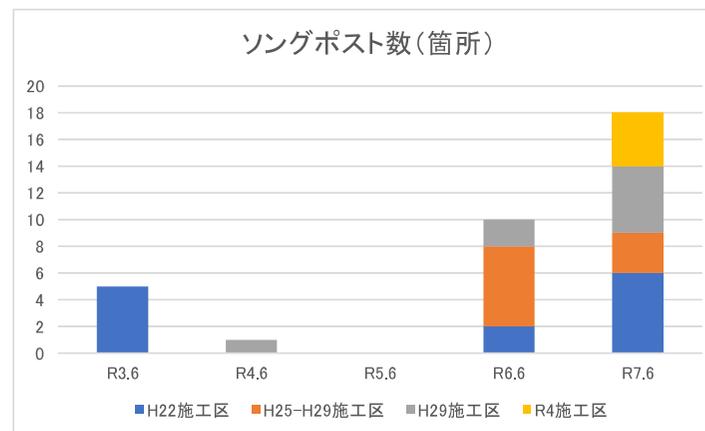
## (5) 鳥類 (初夏調査)

- ・ 施工区の周辺や中州において、オオヨシキリのソングポストを確認。  
⇒ 地区全体としてはオオヨシキリの利用は継続しているものと考えられた。

### ◆ 鳥類の利用状況<オオヨシキリ調査>



オオヨシキリ (令和6年6月 撮影)



オオヨシキリの確認地点  
● ソングポスト  
● ソングポスト以外

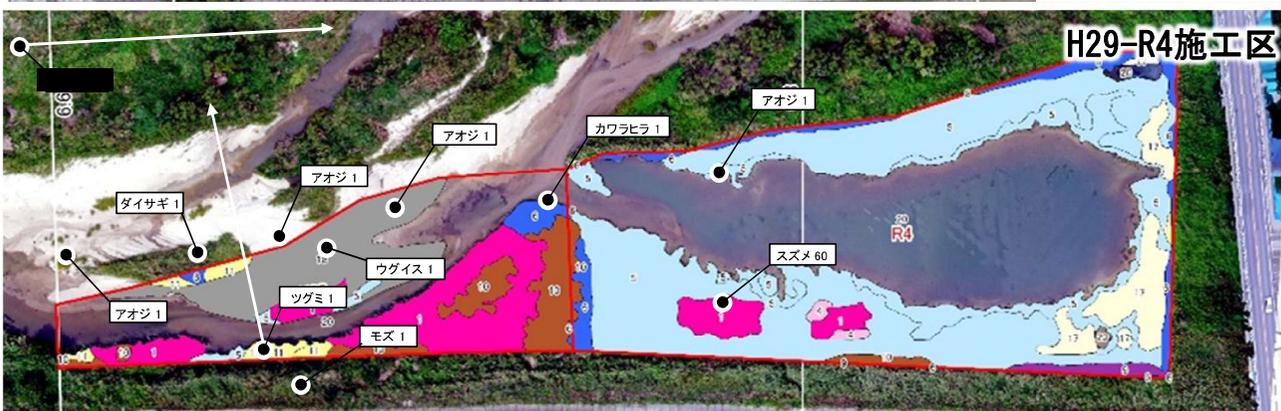
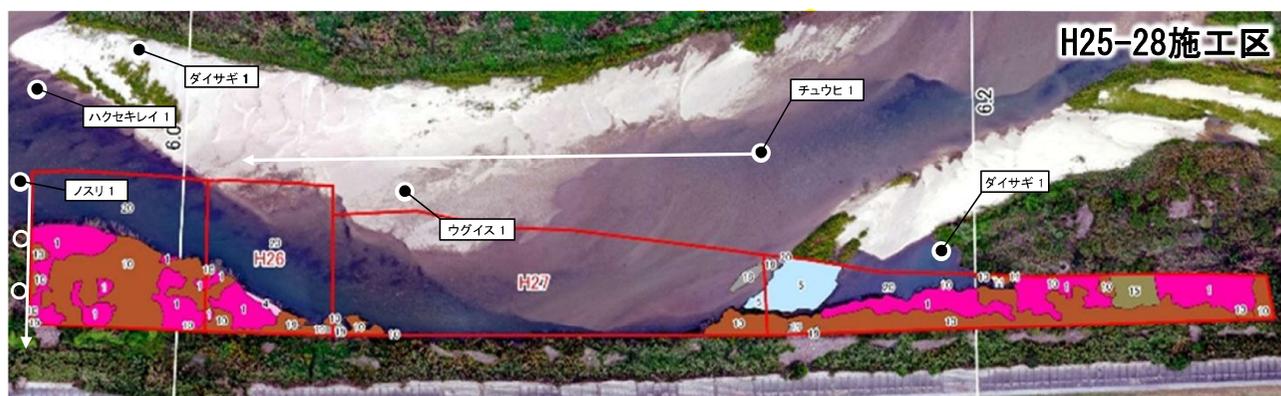
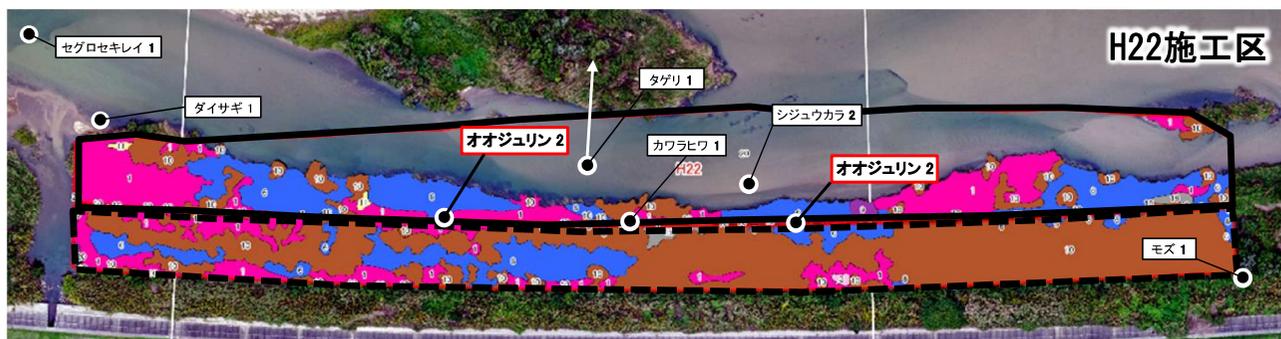
凡例

ヨシ群落	ヤナギ群落
ウキヤガラ群落(ヨシ混生)	ツルヨシ群落
カサゲ群落(ヨシ混生)	マコモ群落
一年生草本群落	キクモ群落
オギ群落	ナンキンハゼ群落
セイタカヨシ群落	開放水面

# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

## (5) 鳥類 (冬季調査)

- ・ ヨシ原に依存するオオジュリンは、令和7年度(令和8年1月)の調査では平成22年度施工区のみ確認し、過年度より減少。
- ・ ヨシを含む草地を好むホオジロやアオジ、モズを確認。



オオジュリン(令和7年1月17日撮影)



ホオジロ(令和8年1月21日撮影)

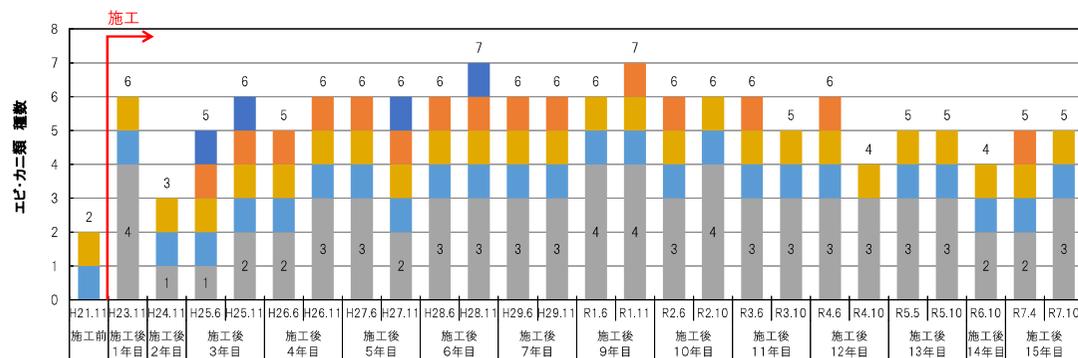
1	ヨシ群落	10	ヤナギ群落
2	ウキヤガラ群落(ヨシ混生)	11	ツルヨシ群落
3	カササゲ群落(ヨシ混生)	15	マコモ群落
4	一年生草本群落(ヨシ混生)	17	キクモ群落
5	一年生草本群落	20	開放水面
6	オギ群落		
9	セイタカヨシ群落		

# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

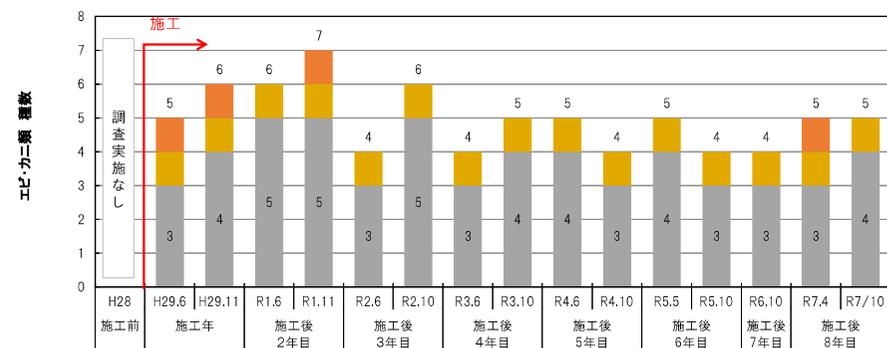
## (6) 底生動物 (エビ・カニ類)

- ・ ヨシ原を利用するエビ・カニ類の生息状況は、施工後15年目となる平成22年度施工区(5.4k+0.0m測線)では経年的に5~6種前後を確認し、施工前と比較して増加。
  - ・ 施工後12年目となる平成25年度施工区(6.0k+0.0m測線)では、年度間でばらつきはあるものの概ね4~5種を確認。
  - ・ 施工後8年目となる平成29年度施工区(6.6k+100m測線)では経年的に4~5種前後を確認。
  - ・ 施工後3年目となる令和4年度施工区(6.8k+00m測線)では種数は引き続き5種を確認。
- ⇒全測線(施工区)で生息環境が維持・創出されていると考えられる。

◇5.4k+0.0m測線 (H22施工区)

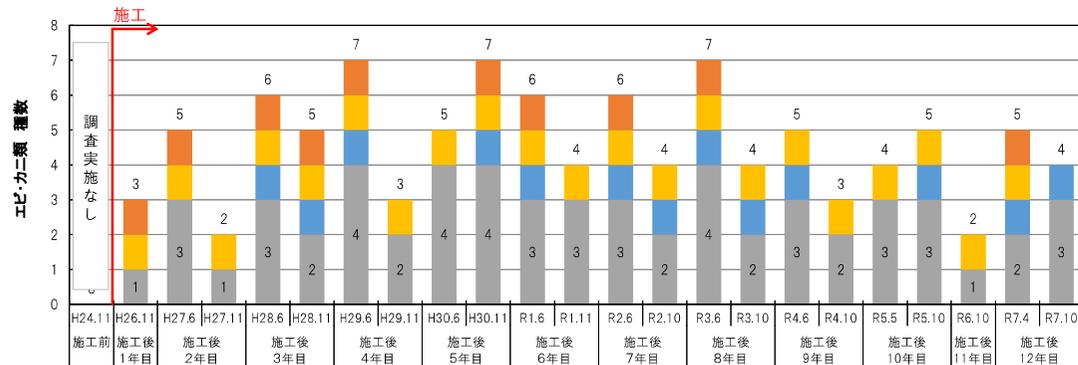


◇6.6k+100m測線 (H29施工区)

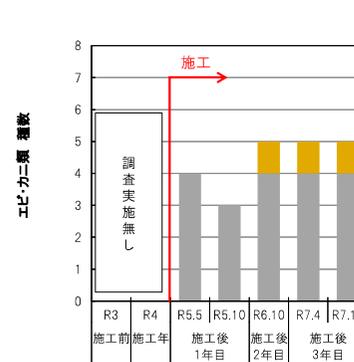


アリアケモドキ	アカテガニ
クロベンケイガニ	ベンケイガニ
エビ類、モクスガニ、タカノケフサガニ、オオヒライソガニ	

◇6.0k+0.0m測線 (H25施工区)



◇6.8k+00m測線 (R4施工区)



# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

## (7) 魚類 (令和4年度施工区の補足調査)

- ・ 合計で6目9科12種の魚類を確認。
- ・ **緩流域環境を好む** (重要種) が多数確認され、ギンブナ、スゴモロコ属等のコイ科魚類も継続的に確認されている。
- ・ 確認種数は緩やかな増加傾向にあり、種数増加に伴い外来種(カダヤシ等)も侵入。
- ・ 底生動物調査時、タナゴ類の産卵基質となる**二枚貝**(等)を確認。
- ・ ワンド施工区は、緩流域環境を好む水生生物の生息環境として機能していると考えられる。

令和7年度 春季調査における確認種一覧

No.	目名	科名	種名	体長区分					合計	重要種	外来種
				0~3.0cm	3.1~5.0cm	5.1~7.0cm	7.1~10.0cm	10.1cm~			
1	ウナギ目										
2	コイ目	コイ科	ギンブナ				1		1		
3			タイリクバラタナゴ	1					1		○
4			カマツカ				1		1		
5			スゴモロコ属		1				1		
6											
7	サケ目	アユ科	アユ				3		3		
8	ボラ目	ボラ科	ボラ		1				1		
9	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	1					1	○	
10	スズキ目	スズキ科	スズキ	2	12				14		
11		ハゼ科	ゴクラクハゼ	1	4				5		
12		タイワンドジョウ科	カムルチー					1	1	○	
合計			個体数	5	23	10	7	1	46		
			種数	4種	5種	2種	4種	1種	12種	2種	3種

確認種数の経年変化

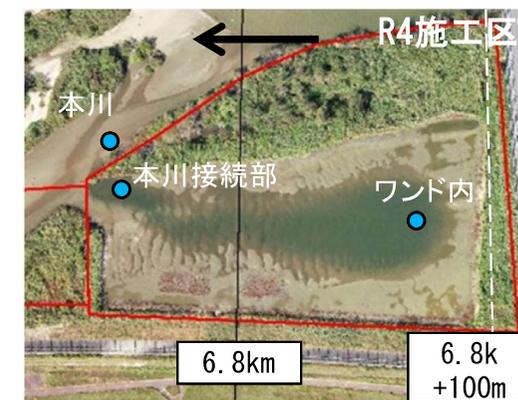
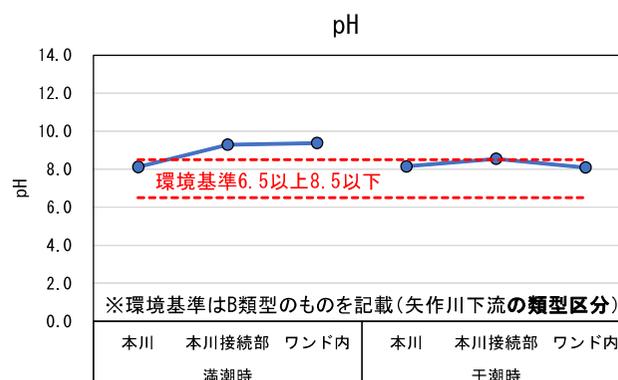
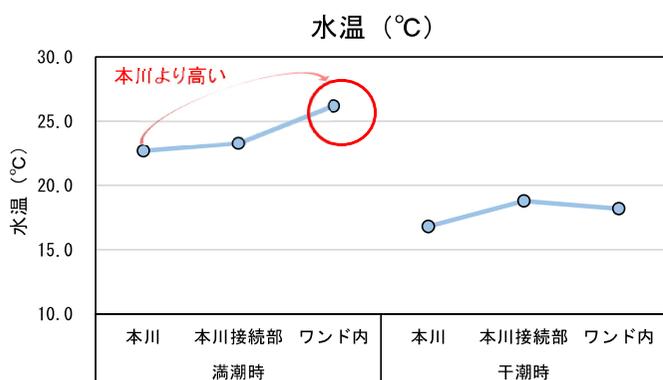


# 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

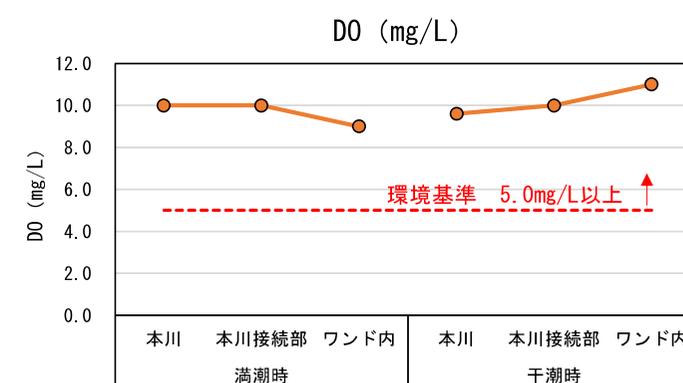
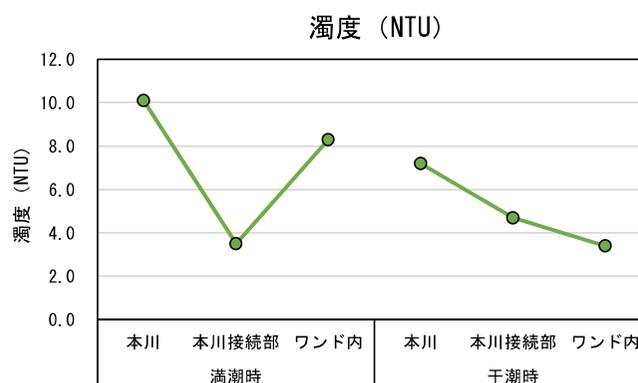
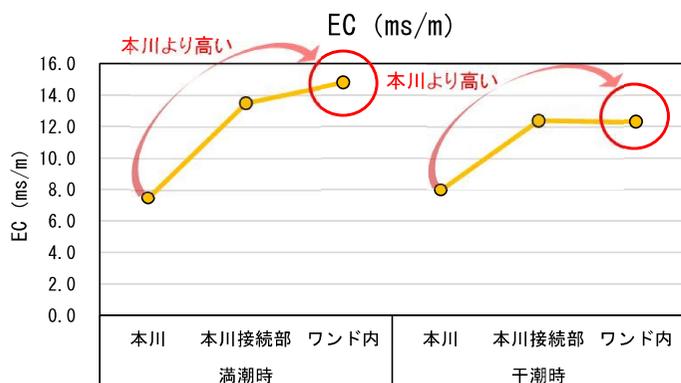
## (8) 水質 (令和4年度施工区の補足調査)

- ・ 満潮時と干潮時の違いを見ると、水温は満潮時に高い傾向にあり、pHも満潮時にやや高かった。他の項目には一定の傾向は見られなかった。
- ・ ワンド内では本川と比較してECが高く、満潮時には水温も本川より高かった。他の項目には一定の傾向は見られなかった。
- ・ 過年度よりpHが上昇しており、本川接続部とワンド内で環境基準を超過した。
- ・ 今後もモニタリングを継続し水質の変動を把握する。

調査実施日: 令和7年4月24日 - 25日



● 水質調査地点



### 3. 令和7年度 施工後モニタリング結果

#### (9) 令和7年度 総括

- ・ ヨシの面積は切り下げ+ヨシ植え(ヨシ根土撒出し、茎植え)により、施工後3~4年をピークに拡大。その後ヤナギ類の増加等により緩やかに減少したのち、樹木伐開により再び増加したが、ヤナギ類の再増加により再び減少傾向。
- ・ エビ・カニ類は全施工区(調査測線)において継続して確認。生息環境が維持されていると考えられる。
- ・ 施工区の周辺や中州において、オオヨシキリのソングポストやオオジュリンの生息を確認。
- ・ 令和4年度施工区のワンドは緩流域環境を好む種の生息環境として利用されている。

区分	項目	評価
ヨシ原施工区全域	地形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H22施工区では本川側水際部の侵食が進行している。</li> <li>・ H25施工区では令和6年度から令和7年度にかけては大きな変化はなく、概ね安定。</li> <li>・ H29施工区では施工断面に侵食がみられ、流心側では中州の堆積が進行。</li> <li>・ R4施工区はワンド内と本川側陸地で堆積傾向。</li> </ul>
	植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H22施工区では、河岸侵食やヤナギ類の増加によりヨシ面積は漸減。</li> <li>・ H25施工区ではヤナギ類が増加傾向。H28施工区ではヤナギ類が増加、ヨシ面積は減少。</li> <li>・ H29施工区はヤナギ類が増加、ヨシ面積が減少。R4施工区ではヨシ面積は変化なし。</li> <li>・ 重要種( )等)が生育する良好な湿地環境を形成。</li> </ul>
	底生動物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工後、ヨシ原に生育するクロベンケイガニ等のエビ・カニ類の種数が増加。生息種数に年変動はあるが、概ね安定して生息。</li> </ul>
	鳥類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工区の周辺や中州において、オオヨシキリのソングポストを確認。</li> <li>・ オオジュリンはH22施工区のみ確認し、過年度より減少。</li> </ul>
	景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの施工区においてヤナギ類が再繁茂し高木化が進行。</li> </ul>
R4施工区	魚類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緩流速環境を好む種の生息を確認。</li> </ul>
	水質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワンドは水温やECが本川よりやや高い傾向を示すが、DOは問題ない。PHがやや高い傾向。</li> </ul>

# 4. 次年度モニタリング実施方針

## (1) 実施方針

- 効果把握のための施工後モニタリングを継続。
- これまでの検討結果を総括し、モニタリング手法の有効性を検討し、次期モニタリング計画など自然再生計画へ反映。

### ◆令和8年度 モニタリング方針

#### ■自然再生モニタリング (事後モニタリング) 干潟、ヨシ原 ～事業効果の検証～

- 効果検証モニタリング※  
ヨシ原6.8k左岸付近  
(施工後4年目)
- 維持管理モニタリング※  
干潟-0.2～0.6k左岸付近  
(施工後16年目)  
ヨシ原5.4k左岸付近  
(施工後16年目)  
ヨシ原6.0k左岸付近  
(施工後13年目)  
ヨシ原6.6k左岸付近  
(施工後9年目)

#### ■持続的な自然再生に 向けたモニタリング・ 評価手法に関する検討

- 検討 6年目
  - ・干潟0.6k左岸付近
  - ・ヨシ原5.4k付近  
(※実施年度: R3～R8)

これまでの検討結果を  
総括(令和8年度)

自然再生事業計画への  
フィードバック  
(モニタリング計画へ)

※自然再生計画書にもとづき実施  
効果検証モニタリング(短期: 3～5年程度)  
維持管理モニタリング(中長期: 5～10年程度)

### ◆干潟・ヨシ原再生箇所(計画)



# 4. 次年度モニタリング実施方針

## (2) モニタリング計画 (案)

- 地形、植生、底生動物、鳥類、景観のモニタリングを実施(令和7年度調査内容を継続)。
- 令和4年度施工区(ワンド)における魚類、水質の状況把握のためにモニタリングを実施(令和5年度より継続)。

区分	項目	目的	調査内容	時期	数量
ヨシ原施工区全域	地形	植生生育の基盤地形を把握	横断方向の地形測量	秋季	4測線
			UAV空撮	秋季	4.6~7k付近
	植生	ヨシ等の植生分布把握	植生図、植物相	秋季	4箇所(施工区全域)
			ヨシ、ヤナギ類の分布状況把握	秋季	4.6~7k付近
	底生動物	底生動物相、生息密度の把握	定量調査コドラート法(室内分析)	春季、秋季	4箇所
			定性目視(現地計測)		4箇所(施工区全域)
鳥類	鳥類の生息状況把握	定点観察: オオヨシキリ(ソングポスト)	夏季1回	1回(施工区全域)	
		定点観察: オオジュリン等	冬季1回	1回(施工区全域)	
景観	ヨシ原景観の把握	定点撮影	春季、秋季	4点	
R4施工区	魚類	ワンド施工箇所周辺の植生の回復に伴う魚類相変化の把握(補足調査)	底生調査(任意採捕・現地計測)	春季、夏季~秋季	1箇所(ワンド施工箇所)
	水質	ワンド施工箇所周辺の水質変化の把握(補足調査)	多項目水質計による現地計測	春季、夏季~秋季	1地区(3点)

※調査位置・数量は、現地状況を踏まえ、適宜変更する

